特集

JAに寄せられたご意見・ご要望

JA秋田なまはげでは今冬、当JAに関する意見集約の場を設け、多数の組合員・生産者の皆様にご参加いただきました。その中で寄せられた様々なご意見やご要望等のうち、主な内容についてお知らせいたします。

平成30年度第2回座談会

（2月6日（水）～19日（火）管内各地）

Q 県1JAに合併する構想について、全県で5JAの合併構想が実現されていないのに大丈夫なのか。

A 平成21年11月の第27回県JA大会において、5JA構想を決議し、前回第29回大会では、5JA構想の完遂を目指すとしたものの、構想に基づき広域JA間合併が実現したのは、平成30年4月1日に合併した「JA秋田なまはげ」のみとなっております。5JA構想を決議した時から既に9年が経過しており、この間、JAを取り巻く情勢はさらに大きく様変わりしております。人口減少と少子高齢化による正組合員数の減少の加速、正組合員の高齢化や法人化による脱退の増加、農協改革による制度改正等、現状では様々な課題に対応できず、10年先が見通せない状況にあります。このことから、情勢を十分認識したうえで鋭意協議を重ね、新たに県1JA構想に至っております。県1JAが実現すればすべて解決するわけではありませんが、この壁を打破するには、オール秋田体制により本県農業振興を図るとともに、最大限機能発揮できるスケールメリットを追求し続ける必要があり、組合員から必要とされるJAであり続けることが、組織の使命だと考えております。

Q 子会社の商号について、既に存在しない組合（JA新あきた）の名称が使用されているため、（株）JA新あきたライフサービスの社名をなまはげに変更する必要があるのではないか。

A 平成31年4月1日の移管に合わせ、3月の臨時株主総会で定款の商号変更が決定され、4月1日より（株）JA秋田なまはげライフサービスに変更されております。

Q GAPとは何か。

A 農産物の安全を確保し、より良い農業経営を実現する取り組みです。統一の基準による生産体制を構築することで、第三者から見ても信頼される管理方法となります。

Q 平成31年度事業計画の骨子で基本目標の「地域の活性化」とは、具体的に何か。

A 地域農業の振興を核としながら、地域や多様な組織と連携をし、豊かで暮らしやすい社会の実現を目指すことです。

Q 担い手の育成とは、具体的に何か。

A 地域の活性化や所得向上へ向かうことと、個人や基盤整備を行った法人の立ち上げに必要な担い手支援を行うことです。

Q こだわり米の土壌改良剤の内容は、今までの中身とどのように違うのか。

A 旧JA秋田みなみ管内は、混合リン肥新3号を土壌改良剤として使用しておりましたが、今年からシリカ未来Ⅱに統一いたします。この土壌改良剤はケイ酸分を多く含んでおり、登熟を良くし、品質の向上に繋がる効果が期待できます。また、タンパク質を抑え、食味の向上が期待できます。

Q 旧JA単位で選別網目の使用状況に大きな差があるようだが、100円以上の価格差を設けてでも1・9ミリメートルを標準としていくべきではないか。

A 平成31年度は、旧JA秋田みなみを含め1・9ミリメートルを標準として取組計画をしております。網目価格設定については平成29年度産と同様に1・9ミリメートルを標準とし、以下の網目については、減額方式となります。

Q 今後の1・9ミリメートル網目の考え方はどうなのか。

A 1・9ミリメートル網目での出荷米を標準化し、以下の網目については概算金での減額方式となります。

Q 今後の米の販売環境はどうなるのか。

A 平成30年度より需要に応じた米生産へ転換されましたが、全国的に見れば大きな作付面積の変動はなく、主産県の作況の低下もあり、米価は安定しております。しかし、米の需要が年8万トンずつ減少している背景もあり、今後とも需要に応じた米生産の必要性が高まると思われます。安定した販売のためには、選ばれる産地を目指すとともに、品質の向上や食味の向上に向けた取組みを進めてまいります。

Q 農業資材をグリーンセンター職員が配達しているが、配送体制が変わったのか。

A 業者委託から職員配送へ昨年からシフトしています。グリーンセンターの人員を1人増員し、予約を含めた配送を行っております。

Q 予約肥料等の配達時期が早くなっているように感じるがなぜなのか。

A 予約注文の配達に時間がかかってきており、若干早くなっておりますが、都合の悪い場合は対応いたしますのでご理解願います。